

高血圧の症状軽減 釣藤散や女神散で

Q 五十二歳、女性。数年前閉経のころから、朝

は頭痛で自覚め、午前中は憂うつでやる気が起きないため内科を受診したところ、高血圧を指摘されました。降圧剤を飲むと血圧が下がりすぎて体がふらつき、別の薬では発疹が出るなど体に合った薬が決まりません。自宅で測ると正常のこともあります。漢方で高血圧の治療は可能ですか。

A 高血圧に対する西洋医学と漢方医学の考え方の相違は、西洋医学が血圧を正常値に下げるといふ客観的指標を第一義的に考えるのに対し、漢方では高血圧に基づく自覚症状の軽減にウェイトをおくところにある。一般的には境界型から軽症の高血圧、または体調やストレスなどによつて血圧が変動しやすい場合が漢方治療に適

する。

質問者のように、血圧の低下が必ずしも体調の改善につながらない例は少なくない。午前中に頭痛や不快があり、エンジンのかかりが悪い方はまず釣藤散（ちようとうさん）を試みる。抑うつ気分や胃腸の不快を伴うものに特によい。更年期障害もかかわるから、のぼせが強く便秘傾向なら女神散（によしんさん）も勧めたい。

自宅やリラックスした時に測ると正常血圧を示し、医師の前では緊張して血圧が高くなる症状は「白衣性高血圧」といわれる。神経質や取り越し苦労の人に多く、漢方治療のよい適応である。半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）を基礎にした自律神経調節作用のある処方にすることが多い。